

第6回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事要旨

■日時:令和6年6月20日(木) 10:30~12:00

■場所:中国地方整備局建政部3階会議室 及び WEB

出席者:別紙のとおり

議 題

- 1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について
- 2) その他

(配布資料)

- ・資料1:中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))
- ・資料2:第5回学識者等会議における主なご意見と対応方針
- ・参考資料1:学識者等会議 規約
- ・参考資料2:国土形成計画(全国計画)
- ・参考資料3:中国圏広域地方計画(基本的な考え方)
- ・参考資料4:中国圏広域地方計画(基本的な考え方)参考資料
- ・参考資料5:次期広域地方計画の策定スケジュール
- ・参考資料6:中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))説明 PPT

1. 開会

挨拶 (中国地方整備局 中崎局長)

- 令和6年6月に二地域居住促進法が策定されている。
- 前回2月の学識者等会議では、中間とりまとめ案について理念、基本戦略などを審議いただいた。
- 基本的には、「中国圏のポテンシャルをもっと活かした、前向きな計画になるように」というご指摘をいただいた。
- 本日の会議では、我々なりの考え方を示すとともに、特に産業、安全・安心、グリーン国土、他地域との連携についてご意見をいただきたい。

渡邊座長 (福山市立大学大学院)

- 昨年7月に全国計画及び、中国圏の広域地方計画の「基本的な考え方」が公表された。
- その後、事務局の方で将来像の具現化に向けたプロジェクト及び施策について検討を進めてきた。特に「広域連携プロジェクト」として様々なプロジェクトが資料に記載されている。
- 中国圏は、近畿や九州、四国の要の部分に位置するため、西日本の広域的なプロジェクトについてもご意見をいただきたい。
- 本日の議題は、大きく以下の2点。
 - 「1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))」
 - 「2) その他」

2. 議題

1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について

事務局より「1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について」を説明

渡邊座長(福山市立大学大学院)

○各委員の皆様から意見、質問等がありましたら発言をお願いしたい。

谷口委員(一般社団法人中国経済連合会)

- 基本的には網羅されていて良い計画案になっていると思う。中経連でもこの計画の中にあるコンセプトを事業計画に盛り込み、連携を図りたい。
- 「小さな拠点」というキーワードは、今回の計画の中で大切なコンセプトと考えるが、具体的にイメージができる記載を追加できないか。
- 「ネットワーク」というキーワードも重要なコンセプトとなっている。交通・人・情報など、ネットワークの違いを書き分けられると良いのではないか。
- 「2024 年問題」という言葉を計画の中にあえて記載する必要があるか。(生産性向上や効率化によって人口減少、人手不足を解消していくという文脈で記載してはどうか。)
- 本文の戦略と目標の書き分けについて、同じ表現にみえるところがある。目標には具体的な表現を入れて、戦略と目標が違うように書き込んでいただきたい。

高橋委員(株式会社中国新聞社)

- 地方のポテンシャルを活かす視点、これまで見出せなかった、時代が変わって改めて見られる中国圏の価値がプロジェクトに反映され、それらを土台として計画全体に記載されており、非常に良かったと感じた。
- 全国計画でも、産業構造、経済・社会、ライフスタイルにも変革が求められており、その変革の舞台として地方の可能性を見出していくことを議論してきたが、持続可能という問いに対して、地方の分散構造が答えになっているのではないかと感じた。
- この広域計画の議論を数年した中で、人口構造が変わっていく中で、国として持続可能であるかの問いに対する一つの答えとして、分散型というキーワードを言ってきたが、かなり浸透してきたのは良いことである。
- 中山間地域の価値を見出すという点を例にすると、今までは「都市と田舎が近い」や「自然に癒される」という都市住民の視点が強かったが、むしろ、食を作れることやエネルギーも一極集中より分散型を併設して用意するという観点がプロジェクトの中に含まれている。
- 今回は、ウェルビーイング、少子化、地域社会の組み直しが必要な中で、これまで中国圏が積み上げてきたソフト面の価値が盛り込まれている。

大島委員(一般社団法人データクレイドル)

- 明るく前向きで希望が感じられる内容となっており良いと感じた。
- 「多様な関係人口の拡大・深化による活躍人口の創出」の項目より前に「活躍人口」が要所に出てく

る。積極的な提案であると思われるので、定義を最初に記載して伝えたほうが良いのではないかな。

齋藤委員（山口大学）

- 「活躍人口」というイメージについて、より具体性があればよい。今後、投資やKPIにつながるイメージが具体的に示せればよいのではないかな。
- 産業・経済について、「地場産業・伝統工芸といった歴史文化に根差した産業の育成」の項目の表現をもう少し追記したほうがよい。
- 他圏域連携について、九州方面との連携が関門に集約しているように見える。リダンダンシーの観点から、新たな下関北九州道路のほかに、大分航路なども含めて連携の深みを表現できないか。なお、「架橋」という表現が見られないため、四国圏域等との連携についても「架橋」という用語を用いながら連携の深みが表現できないか。
- 今回追加した図表について、凡例や単位など、分かりやすい表現に工夫をするとよい。

鈴木委員（山口大学大学院）

- 「活躍人口」が各所にある。「活躍」とは何かを最初に触れてほしい。活躍には、経済社会活動だけでなく、生産に直結しない地域文化や福祉などの社会活動も含まれる。公的なところが担っているところに一般の人が参加することで魅力が出てくる。そういった「活躍人口」のイメージを明確にしていきたい。
- 特に、防災・減災の面で言えば、「平時の防災活動」や「災害発生時の協力活動」など明記されるとありがたい。
- 中国圏の西の出入り口、関門地域の可能性、ポテンシャルについて具体的に記載できないか。九州と中国の大きな可能性が秘められている。具体的に記載することで、民間からアイデアが出てくるのではないかな。

神田委員（呉工業高等専門学校）

- 人材のところがキーとなる。これまでは地域の担い手、量的な不足を問題として取り上げてきたが、最近では、企業からミッションを受けた方が地域を活性化する人材となっているケースも見られる。
- 企業（イントレプレナー）とタッグを組むことで成果が出る可能性が高くなる。地域と企業のシーズ、イントレプレナーが責任をもって取り組むことで、地域の課題解決と企業のビジネスモデルの開発が上手く進んでいくのではないかと考えている。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- これからの人口減少下の段階で、どのような持続可能な圏域とするかが一番の命題である。それに対して「つなぐ」「ネットワーク」「人材育成」「活躍人口」などの重要なキーワードが出ており、それらの意味合いを理念にまとめる必要があると感じた。

森委員（島根大学）

- P34 「農林水産業の成長産業化」（3）に担い手の育成について。
- 担い手が望む土地は条件の良い場所に限られる。担い手問題、大規模化や集積は何十年にわたり議論

されてきているが、人口減少と重なるところもあり改善が進んでいない。喫緊の課題であり、法人化、近代化等の議論がされがちだが、中国圏は特に条件不利地域や中山間地域が多く、担い手育成自体が無理ではないかという議論が、農業経済学の分野ではされてきている。

○担い手を育成するのではなく、「担い方」を論じたほうがよいという意見もある。大規模化や近代化だけではなく、小規模農地、自営農業、兼業農家など、農業を実施すること自体に意味がある。中山間地域の実情に応じた記述があると良い。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○P35 インバウンド・広域観光「地方空港への直行便」について。

○大都市から地方空港への直行便は既にあるため、もう少し地方レベルのハブ&スポークがあっても良いのではないかと。例えば、広島空港がハブになって出雲や山陰と山陽を結ぶような空路ができないか、ボリュームはなくてもよい速達性の高いネットワークを形成するなどを少し議論するといいつながり、ネットワークができると思った。

大島委員（一般社団法人データクレイドル）

○地域生活圏プロジェクトに関連して、四国の事例について紹介する。関係人口・交流人口はいきなり小規模な地域に入るのは難しい。高知県では、一旦、高知市に入って、慣れてきたらさらにローカルな地域に入るといったケースが多いそうである。

○場作り、仕組みづくりで最初の呼び込み先、ハブとなる場所があつて、そこから各地域に送り出すモデルもできるのではないかと。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○これまでの議論を踏まえ総括する。（大きく3点。）

①前向きな計画になっていると高い評価を得た。

②マジックワードが多い。「ネットワーク」「プロジェクト」「活躍人口」など、言葉の意味合いを正確に表現できるように整理すべきではないかと。

③持続可能な圏域形成について、人口減少下で産業効率化が求められる中で、どのようなポイントに着目すべきか。例えば、九州とのつながり（関門海峡のリダンダンシー確保、大分との接続や下関北九州道路など）、人材育成（農業や地域）のための場づくり・仕組みづくりをどのように具体的に記載できるか。

○概ねの方向性は各委員より了解を受けたが、もう少しブラッシュアップしていく。

2) その他について

事務局より「【その他】二地域居住促進法について」を説明

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○以上をもって、議事については終了する。

岩崎推進室長（中国地方整備局）

- 今回頂いた意見を反映し、年末の中間とりまとめで、再度、皆様にご確認をいただきたい。
- 現在、各県及び政令市や経済団体にも意見をうかがっているところ。行政エリアをこえた取組の必要性や、施策を進めるうえでの制度関係の課題感などについて意見を頂いている。
- 西日本連携については、各圏域（近畿圏・中国圏・四国圏・九州圏）で広域地方計画の状況を報告し、パネルディスカッションを行っている。（近日、公表予定。）

益田局長（中国運輸局）

- P35 インバウンドについて。従来の通過型観光では JR を使い、大阪や福岡から原爆ドーム・宮島をみて、すぐ他の地域に移動している。「地方空港からの直行便」は、東アジア・東南アジアからの直行便をイメージしている。アジアから広島空港を利用すれば広島で一泊することも考えられる。

中崎局長（中国地方整備局）

- 今回、九州との関係について改めてご指摘いただいた。九州は、下関北九州道路のみでなく、北九州空港とのつながり、山口・九州の広域観光なども進められている。
- 中国圏では、中枢中核都市である広島市と横は新幹線でつながっているが、縦がつながっていない。先ほど空港の活用もあがった、道沿いに耕地や農業施設を繋いでいくという視点も必要ではないか。本日「担い方」という話があった。中山間地域の農業については、必ずしも大規模化・近代化のみならずという話であった。そのような地域に手を差し伸べようとする、縦の軸で肥料・飼料から製品まで運搬できるようにつながっていないといけない。観光も同じであるので、一体的に地域のためになる方向性を示すべきであると感じた。

3. 閉会

挨拶(中国運輸局 益田局長)

- 本計画は、著しい人口減少下でいかに持続可能な圏域を形成するかという困難な課題に注目しつつ、一方で明るい前向きな将来の可能性を示せたという点が良かったと思っている。
- 今回頂いた意見について、年末の中間とりまとめにおいて作り込んでいきたいと考えている。引き続きご意見をいただきたい。

事務局

以上をもって、第6回中国圏広域地方計画学識者等会議を終了する。

(以上)